St. Luke's International University Repository

St. Luke's College of Nursing-student's Motivation for Selecting both Nursing Program and St.Luke's College for Study.

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 横山, 美樹, 岩井, 郁子, 太田, 喜久子, 香春, 知永, 操, 華子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/313

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

―報 告―

聖路加看護大学入学生の看護ならびに本学の選択動機

横山美樹[1)], 岩井郁子[2)], 太田喜久子[3)],
香春知永[4)], 操　華子[5)]

要　旨

1989年に「本学学生が看護を学ぶことを決定した動機」を発表したが、看護教育をめぐる変化、社会情勢の変化の中で、本学の入学生が看護を学ぶことを選択した動機、看護を学ぶ場として本学を選択した動機、前回調査結果との比較を明らかにすることを目的として、1989年度～1995年度入学生を対象に質問紙による調査を行った。

対象者392名、回収率93.9%(368名)であった。

その結果、以下のことが明かになった。

1.看護を選択した動機では、「やりがいのある仕事」、「人間を対象とする仕事」など"職業として"の選択、また「自己成長できる」、「人の為に役立ちたい」など"生き方"としての選択が多かった。主な動機は1988年度調査結果と比較して大きな変化はなかった。

2.看護を選択する目的では、最近の傾向として複数選択する学生が多くなり、「自分のため」が増加した。また「学問として」も増加傾向がみられた。

3.本学を選択した理由の特徴的なものは「キリスト教精神」であった。「高いレベルの教育」「卒業生の評価が高い」「他者の勧め」など本学の教育、卒業生の社会的評価が高いことを反映する項目も多かった。

以上より、看護選択動機にはこの13年間で大きな変化は認められなかったが、看護を選択する目的として複数項目を選択し、また「自分のため」という自分自身の生き方への関心の度合いの増加、「学問として」の看護の見方の増加が変化としてあげられた。

キーワーズ

聖路加看護大学　入学生　看護　選択動機

はじめに

ここ数年の間に看護教育をめぐる環境は、大きく変化してきた。1986年には11校であった看護系大学は、現在40校にまで増え、さらに10年後には50校から60校になるともいわれている。ようやく看護教育が大学で行われる時代に入ったともいえよう。

また近年社会情勢の変化により、大学卒業後の就職、特に女子の就職は非常に厳しくなっており、看護の大学教育化とも相まって、より実学志向の女子学生が増加するのではないかという看護大学側にとって明るい見方もある。

しかしながら、15歳未満の年少人口の割合は、1990年の18.2%から減少を続け、2000年には15.2%に達し、以後やや上昇するものの再び低下するといわれている[1)]が、このような少子社会の中で、大学間における競争の激化が予測される。

これらの変化の中で、学生の看護を選択した動機、

1) 聖路加看護大学講師（基礎看護学）
2) 聖路加看護大学教授（看護管理学）
3) 聖路加看護大学教授（基礎看護学）
4) 聖路加看護大学助教授（基礎看護学）
5) 聖路加看護大学講師（基礎看護学）

また看護大学を選択した動機の実態を把握・理解し、本学の特色・独自性を打ち出し、より効果的な教育を目指すことが課題である。

1989年、「本学学生が看護を学ぶことを決定した動機の実態」を発表した[2]が、この調査結果をもとに調査用紙を新たに作成し、1989年から1995年の7年間にわたり、学生の動機、準備状態に応じた教授活動を行う資料を得るために、本学に入学した1年生を対象に入学動機に関するアンケート調査を継続してきた。先に述べたように、前回調査時の1983～1988年当時とは社会情勢、そして看護を取りまく状況も大きく変化してきているが、それらの影響の有無、最近の動向を明かにするために、この7年間の入学生達の看護を学ぶ動機、および本学を選択した動機を中心に分析を行ったので報告する。

I. 調査目的

1. 1989年度から1995年度の本学入学生の看護を学ぶことを選択した動機・目的を明らかにする。
2. 1989年度から1995年度入学生の看護を学ぶ場として大学を選択した動機を明らかにする。
3. 1989年度から1995年度入学生の看護を学ぶ場として本学を選択した動機を明らかにする。
4. 上記の結果と1983年度から1988年度の本学入学生を対象とした前回調査結果との比較を行い、最近の動向、変化を明かにする。

II. 調査方法

1989年の調査結果をもとに作成した入学動機に関する調査用紙を用いた。前回調査は、学生の入学動機を自由回答式で質問し、その結果を内容毎に分類し、大きく"外刺激動機"、"内在動機"とにまとめたものである。今回の調査用紙はこの結果から、1)看護を学びたいと思った主な動機について、あらかじめあげた38項目(前回調査で多くあげられた項目)を提示し、その中から3つ選択しその動機の強い順に順位をつけるもの、2)看護を選択した目的について、前回調査結果であがった"内在動機"の内容(「職業として」、「生き方として」、「興味として」、「自分のため」、「何らかの手段として」、「学問として」の6項目)の中から該当するもの全てを選択するもの、3)看護を学ぶ場として大学を選択した動機を9項目から選択するもの、4)聖路加看護大学を選択した理由(自由回答)、5)その他、で構成した。

対象は、1989年から1995年に本学に入学した学生392名とした。入学後4月の最初の「看護学原理」の授業終了時に調査用紙を配布し、無記名で調査を行った。

III. 結果

回収率は93.9%（368名）であった。学年別回答者数及び回収率は、表1に示すとおりである。1989年から1992年までは、授業の一貫として教員から依頼し、全員から回収したため回収率100%となっているが、1993年からは提出を学生達の意志に任せたため回収率が低下した。

表1. 学年別回答者数と回収率

入学年度	対象者(人)	回答数(人)	回収率(%)
1989	55	55	100.0
1990	55	55	100.0
1991	55	55	100.0
1992	54	54	100.0
1993	55	53	96.4
1994	58	53	91.4
1995	60	43	71.7
計	392	368	93.9

1. 看護を学びたいと思った主な動機

看護を選択した動機として、あらかじめあげた38項目の中から3つを選択させ、その動機の強い順に順位をつけさせた。38項目になかった場合は、その他として自由記載とした。1位の項目を3点、2位の項目を2点、3位の項目を1点と重みづけし、各学年における全得点中に占める割合(%)を各項目得点とし、7年間全体での上位8項目と各学年における順位を示した(表2、図1)。

7年間全体を平均してみると、上位5位までの順位は「やりがいのある仕事」、「人間を対象とする仕事」、「自分や他者の疾病体験」、「自己成長できる」、「人の為に役立ちたい」であった。特に1位の「やりがいのある仕事」という項目は、1990年度入学学年以外全ての学年で1位あるいは2位と常に上位であった。また2位の「人間を対象とする仕事」ということからも、学生達が"職業として"看護を選択している傾向が強くあらわれた結果であった。次いで「自己成長できる」、「人の為に役立ちたい」というような"生き方として"選択する傾向もみられた。また「自分や他者の疾病体験」、「肉親が医療関係者」という外刺激動機も各学年で何人かが理由としていたことは特徴的である。

今回上位にあがったこれらの項目は、前回1988年の調査（1983年度～1988年度入学の学生対象）結果でも上位にあがった項目であり、本学の学生が看護を選択した主な動機は、この13年で大きな変化はみられなか

表２．看護を学びたいと思った主な動機ー全体得点での上位８項目の入学年度別得点・順位

項目＼入学年度	全　体	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995
やりがいのある仕事	74.41	11.69 1位	6.06 5位	9.00 2位	14.24 1位	13.40 1位	11.48 1位	8.54 2位
人間を対象とする仕事	61.30	6.49 4位	10.30 1位	7.20 4位	9.09 2位	13.40 1位	4.65 5位	10.17 1位
自分や他者の疾病体験	51.51	6.17 5位	8.18 3位	5.70 5位	9.09 2位	8.49 3位	9.00 2位	4.88 8位
自己成長できる	51.44	8.77 3位	8.48 2位	4.20 7位	8.48 4位	8.17 4位	6.83 3位	6.51 3位
人の為に役立ちたい	50.43	11.69 1位	7.86 4位	11.71 1位	3.04 11位	6.21 5位	4.97 8位	4.95 8位
人間に興味がある	36.16	6.49 4位	6.06 5位	4.50 6位	4.55 6位	1.63 17位	6.83 3位	6.10 5位
一生続けられる仕事	33.32	5.19 8位	3.33 11位	4.20 7位	5.46 5位	4.58 7位	5.27 7位	5.29 7位
肉親が医療関係者	29.26	4.22 9位	4.54 7位	9.01 2位	4.25 7位	2.61 12位	3.41 12位	1.09 23位

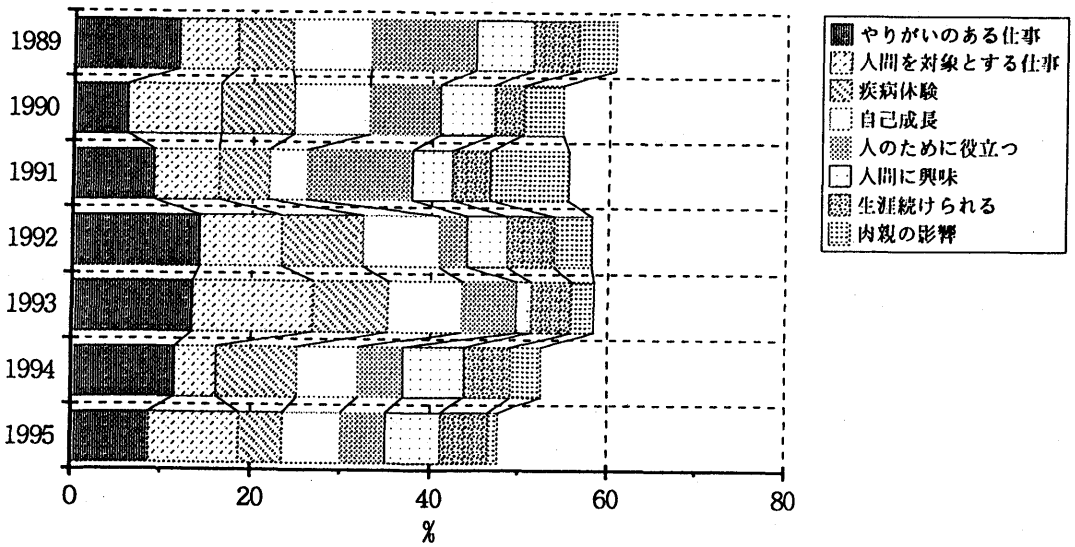

図１．看護を選択した動機の入学年度別得点　ー上位８項目での比較

った。

学年毎でみると、「やりがいのある仕事」は毎年上位にあがった項目ではあるが、1990年度入学生では５位になっていたことが特徴的である。この学年では、全体では７位の「一生続けられる仕事」も11位と低く、逆に「自己成長できる」が２位と他学年より高かった。その他、1991年度入学生では、「肉親が医療関係者」が２位と高かったが、1995年度入学生では23位と非常に低かったこと、また1992年度入学生では、「人の為に役立ちたい」が11位と低かったこと、1993年度入学生では、「人間に興味がある」が17位と低かったことなど学年によって多少傾向の違いがみられた。

２．看護を選択した目的

看護を選択した目的について、「職業として」、「生き方として」、「興味として」、「自分のため」、「何らかの手段として」、「学問として」の６項目の中から該当するもの全てを選択させた（複数回答あり）結果は表３、図２の通りである。各学年とも、「生き方として」、「職業として」が多くあげられ、前記の“看護を学びたいと思った動機”の結果とも一致した。

また学年毎の比較でみると、1989年度から1993年度入学の学生は、１人１項目、多くても２項目を選択す

表3．看護を選択した目的ー学年別人数と順位

項目＼入学年度	全　体 N=368	1989 N=55	1990 N=55	1991 N=55	1992 N=54	1993 N=53	1994 N=53	1995 N=43
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
生き方として	203(55.2)	21(38.2) 1位	33(60.0) 1位	26(47.3) 1位	23(42.6) 1位	31(58.5) 1位	37(69.8) 2位	32(74.4) 2位
職業として	163(44.3)	19(34.5) 2位	10(18.2) 3位	19(34.5) 2位	21(38.9) 2位	17(32.1) 2位	39(73.6) 1位	38(88.4) 1位
自分のために	120(32.6)	18(32.7) 3位	12(21.8) 2位	5(9.1) 3位	13(24.1) 3位	7(13.2) 3位	33(62.3) 3位	32(74.4) 2位
学問として	40(10.9)	3(5.5) 4位	5(9.1) 5位	3(5.5) 5位	0(0.0)	3(5.7) 5位	8(15.1) 5位	18(41.9) 4位
興味として	33(9.0)	1(1.8) 5位	1(1.8) 6位	1(1.8) 6位	4(7.4) 4位	4(7.5) 4位	9(17.0) 4位	13(30.2) 5位
何らかの手段として	27(7.3)	1(1.8) 5位	8(14.5) 4位	4(7.3) 4位	2(3.1) 5位	2(3.8) 6位	6(11.3) 6位	4(9.3) 6位

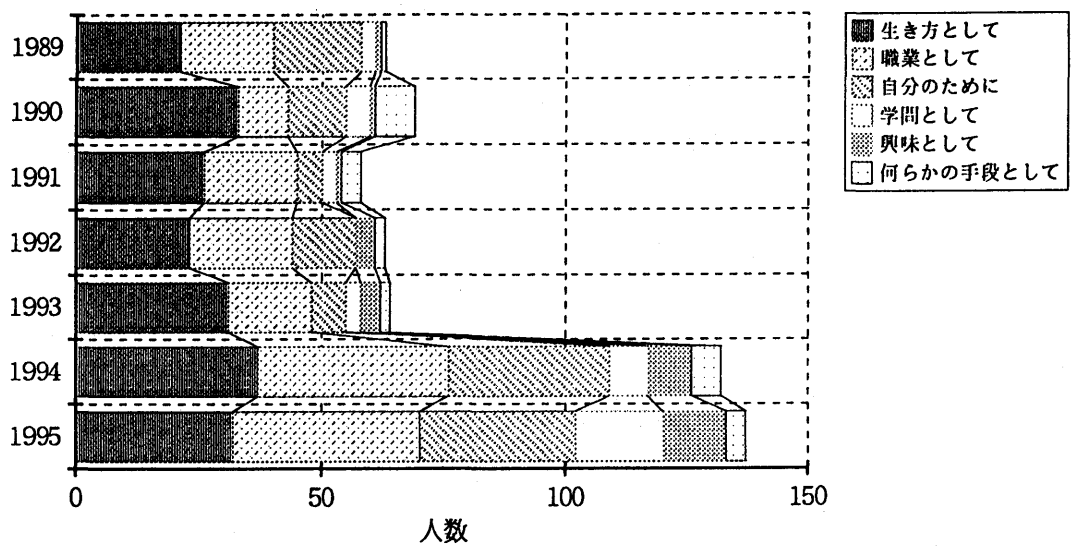

図2．看護を選択した目的 ー学年別人数推移

る傾向が強かったが、最近2年間－1994年度、1995年度入学の学生では「生き方として」、「職業として」、「自分のために」の3項目を選択する者が多かったという傾向もみられた。複数回答が多い為、1994、1995年度は全体に各項目選択者の割合が高くなっている。「自分のために」という回答は、1989年度入学生でも多かったが、やはりここ2年間で増加していたことが特徴的である。また「学問として」を選択した1992年度入学生はいなかったが、1995年度入学生に多かったことも興味深い。

さらに前回の1983～1988年度対象の調査結果では、「職業として」がどの学年においても非常に多く、次いで「生き方として」となっており、そのことからも最近の学生が「生き方」を選択する傾向が強くなっているといえる。「学問として」に関しても、1983～1988年度入学生ではほとんどあがっていなかった。

3．看護を学ぶ場として大学を選んだ理由

看護を学ぶ場として大学を選択した動機を「一般教育を学びたい」、「広い学びを得たい」、「高度な専門教育を学びたい」、「自己をみつめたい」、「人間的に成長したい」、「卒業後の職業選択の道が広い」、「3年課程と違う1年多い何かがある」、「他者から(両親、教師等)すすめられて」、「その他」の9項目から選択させた（複数回答あり)。結果は表4、図3のとおりであった。1991年度入学の学年を除いた他全ての学年で「広い学びを得たい」が1位で、7年間全体でみると「高度な専門教育を学びたい」、「卒業後の職業選択の道が広い」、「人間的に成長したい」、「一般教育を学びたい」、「3年

表4．看護を学ぶ場として大学を選択した理由－上位6項目の学年別人数と順位

項目＼入学年度	全　体 N=368	1989 N=55	1990 N=55	1991 N=55	1992 N=54	1993 N=53	1994 N=53	1995 N=43
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
広い学びを得たい	163(44.3)	22(40.0) 1位	27(49.1) 1位	17(30.9) 2位	23(42.6) 1位	18(34.0) 1位	31(58.5) 1位	25(58.1) 1位
高度な専門教育を学びたい	135(36.7)	19(34.5) 2位	16(29.1) 2位	24(43.6) 1位	17(31.5) 2位	12(22.6) 4位	23(43.4) 2位	24(55.8) 2位
卒業後の職業選択の道が広い	98(26.6)	14(25.5) 4位	15(27.3) 3位	7(12.7) 4位	11(20.4) 4位	16(30.2) 2位	17(32.1) 3位	18(41.9) 3位
人間的に成長したい	96(26.1)	15(27.3) 3位	10(18.2) 4位	12(21.8) 3位	14(25.9) 3位	14(26.4) 3位	14(26.4) 4位	17(39.5) 4位
一般教育を学びたい	40(10.9)	8(14.5) 5位	8(14.5) 5位	3(5.5) 5位	2(3.7) 6位	4(7.5) 6位	7(13.2) 5位	8(18.6) 5位
3年課程と違う1年多い何かがある	37(10.1)	6(10.9) 6位	4(7.3) 6位	3(5.5) 5位	8(14.8) 5位	5(9.4) 5位	7(13.2) 6位	4(9.3) 6位

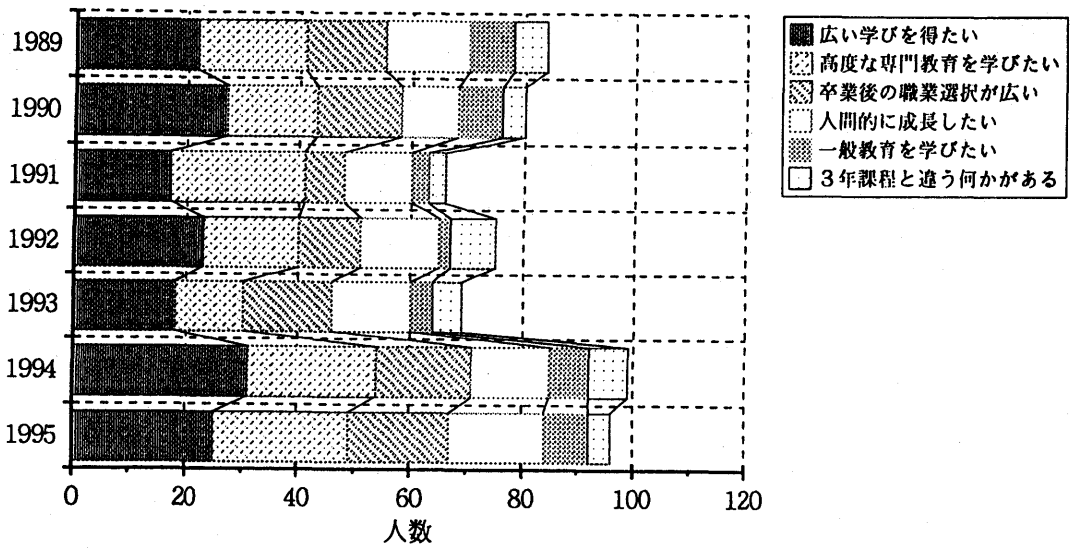

図3．看護を学ぶ場として大学を選択した理由 －学年別人数推移

課程と違う1年多い何かがある」と続いた。この結果から大学を選択する動機としては、まずは広い学びに期待し、看護に関してはより高度な専門教育と職業選択の幅が広いことを挙げていることがいえる。学年による違いはあまりみられなかった。

4．聖路加看護大学を選択した理由

看護を学ぶためになぜ本学を選択したのか、その志望動機をなるべく具体的に自由記載で回答してもらった。その回答を内容毎に分類し、学年毎に集計した結果は表5、図4に示す通りであった。

「高いレベルの教育をしている」という理由は常に上位で、教育レベルに対する社会的評価と学生の期待がうかがえる。また「他者から勧められて」という理由も毎年上位に挙がっていた。「キリスト教精神が基盤」、「学長の存在、影響」も毎年必ず入っていたが、これは他大学と比べて本学の特徴といえる。「語学の教育（英語教育）に力を入れている」という理由もあがっており、本学の英語教育に対する評価を反映している。「卒業生の評価が高い、大学の教員が活躍している」という理由は、「他者から勧められて」と合わせて本学の長年にわたる教育への評価、大学教員、卒業生の広い活躍に対する評価を感じさせる。

「4年制大学であり、資格を多く取れる」、「大学院がある」という理由は特にこの2年間で減少傾向がみられる。このことは、看護系大学、大学院が増加している影響を受けていると考えられる。「国際性がある」についても減少傾向にある。また「自宅から通える」は学年により差がみられるが、1995年度入学の学生では

表5．聖路加看護大学を選択した理由

項目＼入学年度	全　体 N=368	1989 N=55	1990 N=55	1991 N=55	1992 N=54	1993 N=53	1994 N=53	1995 N=43
	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)	人数(%)
高いレベルの教育をしている	98(26.6)	8(14.5)	8(14.5)	21(38.2)	13(24.1)	19(35.8)	18(34.0)	11(25.6)
キリスト教精神が基盤	60(16.3)	4(7.3)	15(27.3)	6(10.9)	12(22.2)	7(13.2)	9(17.0)	7(16.3)
他者から勧められて	56(15.2)	8(14.5)	5(9.1)	6(10.1)	10(18.5)	8(15.1)	14(26.4)	5(11.6)
日野原先生がいるので日野原先生の著書を読んで	44(12.0)	7(12.7)	5(9.1)	4(7.3)	8(14.8)	9(17.0)	8(15.1)	3(7.0)
4年制の大学であり資格を多く取れる	42(11.4)	6(10.9)	12(21.8)	2(3.6)	7(13.0)	9(17.0)	3(5.7)	3(7.0)
卒業生、教員の評価が高い	29(7.9)	4(7.3)	3(5.5)	3(5.5)	7(13.0)	3(5.7)	6(11.3)	3(7.0)
語学(英語)の教育に力を入れている	27(7.3)	8(14.5)	5(9.1)	1(1.8)	5(9.3)	4(7.5)	0(0.0)	4(9.3)
国際性がある	20(5.4)	2(3.6)	6(10.9)	9(16.4)	2(3.7)	1(1.9)	0(0.0)	0(0.0)
大学院がある	18(4.9)	2(3.6)	3(5.5)	0(0.0)	4(7.4)	9(17.0)	0(0.0)	0(0.0)
自宅から通える	14(3.8)	3(5.5)	2(3.6)	0(0.0)	4(7.4)	1(1.9)	0(0.0)	4(9.3)

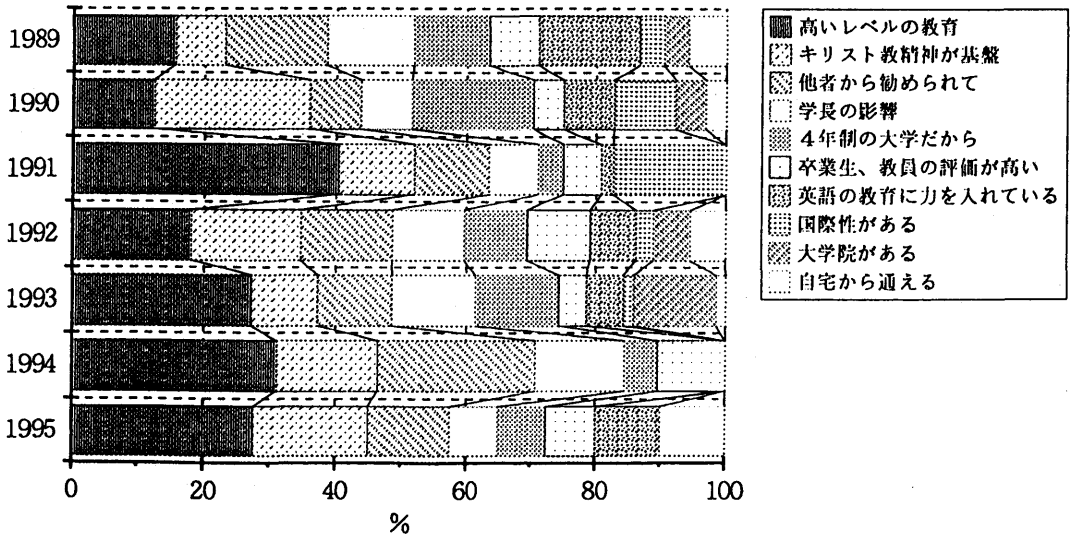

図4．聖路加看護大学を選択した理由 ー学年別回答比率の比較

9.3%と多くなっていた。

IV.　考察

1．看護を選択した動機・目的

本学学生が看護を選択した動機・目的としては、「職業として」の看護を「やりがいがある仕事」、「人間を対象とする仕事」としてとらえ、また「自己成長できる」、「人の為に役立ちたい」という「生き方」の面でも選択していた。看護専門学校生、看護短期大学生、看護大学生を含む他の看護学生の入学動機、看護職を選んだ動機に関する調査によると[3)4)]、「資格を身につけたかったから」という動機が強く、次いで「人のためになる仕事」、「やりがいのある仕事」と続いている。今回、本調査での選択肢に「資格が取れる」という項目

は入れていないが、似たような意味として「一生続けられる」という項目を入れており、これは全体の7位であった。質問が違うため正確に比較はできないが、前回1988年度の調査で自由回答式に質問した際も、「経済的自立」、「免許取得」をあげた学生は非常に少なかった[2]。このことから本学学生の特性として、職業上の資格をとるために看護を選択するというよりは、看護本来の仕事の特性と自分の生き方を考慮して看護を選択する学生、つまり看護することの意味を考えている学生が多いといえるのではないだろうか。1988年度の調査結果よりも、看護を選択した目的が、「職業として」より「生き方として」が多くなっていることは、自分自身の生き方への関心の度合いがより強くなっているという傾向を示しているのではないだろうか。また本学は、学費が高額である私立大学であるが、それにもかかわらず本学を選択するという学生の生活背景による影響も考えられるかもしれない。いずれにせよ、最初から看護に焦点を当て入学してくる学生に対して、その意欲と動機を育み、大切にしながら教育を展開していくことが課題となる。

看護を学ぶ目的として、「職業として」、「生き方として」だけではなく「自分のために」を選択する学生が増加している点は、自分を中心に考える現代若者気質のあらわれともいえるかもしれない。また、1994年度、1995年度入学生が、目的を複数挙げたことが特徴的であるが、1つの目的のためだけではなく、複数の目的のために看護を選択している学生が増加しているといえる。さらに、「学問として」を選択する学生が1994年度から1995年度へと増加したことに関しては、看護の大学教育の増加に伴い看護を「学問として」とらえ、それを大学で学ぶという考えが少しずつ定着してきているとも考えられる。

2．看護を学ぶ場としての大学の選択

本調査では、「高度な専門教育を学びたい」という理由で大学、そして本学を選択した学生が多かった。選択肢が決まっていたため、学位取得に関する回答はみあたらなかったが、大学進学率が高くなっている現在、専門学校、短大よりも大学進学を目指す学生が増えているという社会的な現象も影響していると考えられる。

看護の領域とは異なる大学の入学動機の調査結果をみると、某公立大学教育学部では、入学動機の上位項目として「教員になりたい」、「国立大学だから」、「センター試験の成績」、「自分の興味や関心」、「親からのアドバイス」、「自宅から通学できる」などがあがっている[5]。また某国立大学教育学部の入学生に対する調査では、これらの項目に加えて「その大学にあこがれて」、「その大学がある町が好きだから」、「総合大学だから」、「学生生活を楽しみたいから」、「教員養成系大学・学部の中ではレベルが高いから」などがあがり、大学で学ぶ内容よりも大学の全体的な特徴に選択の基準があった[6]。一方本学の学生は、教育の内容である「看護」に焦点を当て本学を選択していた。ただし、本学は私学である看護の単科大学でありそのことによる特殊性の影響は考えられる。そのため、「看護」を選択する入学生の一般的特性を知るためには、今後他の国公立大学・総合大学に設置された看護学部との比較検討などが必要かもしれない。

本学を選択した動機として「4年制大学である」、「大学院がある」という理由は、若干ではあるが減少傾向を示している。このことはここ数年急激に看護系大学、看護学部が設立されたことによる影響も考えられる。今後受験者数は減少するのに対し、看護系大学が増えていくという現実において、「受験者は優れたあるいはユニーク性のある大学を選択する」時代を迎える。したがって、受験生にとって魅力ある特色・独自性を打ち出していくことが大学にとって生き残っていくための条件であると考える。

本学を選択した動機の特徴の1つは「キリスト教精神」であった。「人間愛」というキリスト教精神は、看護を志向する学生の内的価値に共通するものがあるともいえる。この「キリスト教精神」は、本学の大きな特色・魅力の1つとして重視・強化すべき視点である。同様に「語学の教育(英語教育)に力を入れている」ことも、看護の国際化時代を迎えている今、本学の特性とすべき点である。また「他者の勧め」、「卒業生の評価が高い、大学の教員が活躍している」という理由は、本学の長い伝統においてその教育、卒業生の社会的評価が高いことを表している。今後もその評価が続くよう、社会的に貢献できる人材の育成のために、教育、研究、実践にさらに力を注ぐことが課題である。

V．おわりに

看護、看護教育をとりまく環境は、今後ますます変化していく。社会情勢にも目をむけ、また学生の気質の変化を受けとめつつ、いかに本学の理念を大切にしながら看護をめざす学生を教育していくのかが常に問われている。入学動機は、その後の学生の主体的な学習態度に大きな影響を与えるものであり、学生自身を知る大きな手がかりを与えてくれるものである。効果的な教育を行うための基礎資料として把握していくためにも今後も調査を継続していく必要がある。

最後に、本調査に協力して下さいました学生の皆様に深く感謝致します。

<引用文献>

1) 財団法人厚生統計協会：国民衛生の動向, 42(9), 39-40, 1995.
2) 西郷淳子, 岩井郁子, 太田喜久子, 操華子：本学学生が看護を学ぶことを決定した動機の実態, 聖路加看護大学紀要, 15, 78-87, 1989.
3) 特集「なぜ看護職を選んだのか？」, クリニカルスタディ, 11(4), 65-73, 1990.
4) 日本看護協会調査研究報告：1992年看護学生の進路決定に関する調査, 日本看護協会調査研究報告, 37, 1992.
5) 大野木裕明, 吉田祥造：教育学部新入生の入学動機と教師イメージに関する調査的研究, 福井大学教育学部紀要IV(教育科学), 45, 63-83, 1993.
6) 鈴木正幸, 龍上凱令他：1987 教育学部学生の教職志望に関する考察, 神戸大学教育工学センター研究紀要, 79-105, 1987.

<参考文献>

1) 島村忠義：全国調査からみた現代看護学生気質, 看護展望, 10(5), 475-474, 1985.
2) 永田忠夫：看護婦という職業を選択した要因について, 愛知県立看護短期大学紀要, 13号, 65-75, 1981.
3) 松木光子, 山口花江, 福井典子：看護学生の進路決定過程について, 看護教育, 13(1), 54-58, 1972.
4) 藤竹暁：若者はいま, 現代のエスプリ265, 5-12, 1989.
5) 犬田充：新人類現象の嘘と真, 現代のエスプリ265, 68-76, 1989.

—英文抄録—

St. Luke's College of Nursing: Student's motivation for selecting both nursing program and St. Luke's College for study

Miki Yokoyama, Ikuko Iwai, Kikuko Oota
Chie Kaharu, Hanako Misao

In 1989, we published "A Study of Students' Motivation for Selecting a Nursing Program". Now, as the circumstances surrounding nursing education and the social situation are changing, we studied this matter again.

The purpose of this survey is a) to find the motive for selecting a nursing program as well as this college, and b) to compare the results with those of the previous study. The questionnaire delineating reasons for selecting a nursing program and St. Luke's College were distributed to the 392 students who entered this college from 1989 to 1995. The response rate was 93.9%.

The findings were as follews:

1) Many students selected a nursing program as an occupational choice. Responses noted thet "nursing is worth while work", "nursing provide a service to people". They also selected nursing as "a way of life" so that "they would be able to grow" and "be useful to others". These results were almost the same as those of the previous study.
2) In the last two years, students demonstrated a tendency to choose two or three reasons for selecting a nursing program. The number of students who chose the reason "for myself" and "as a study" also increased.
3) "Christianity" was a unique reason for choosing this college. "Good quality of education". "high estimation of graduated", "recommendation of others" were also main reasons.

Over the last 13 years, there was no change in motivation for selecting a nursing program. However, students showed a tendency to provide several reasons for choosing nursing. There was an increase in the number of students who were 1) interested in nursing for their own satisfaction and 2) who saw nursing as a intellectual study.

KEY WORDS:

St. Luke's College of Nursing, Students, Nursing,
Motivation for selecting